

10. 配慮事項

10-1. 効果的な緑化計画への配慮事項

(1) 接道部に重点を置いた計画

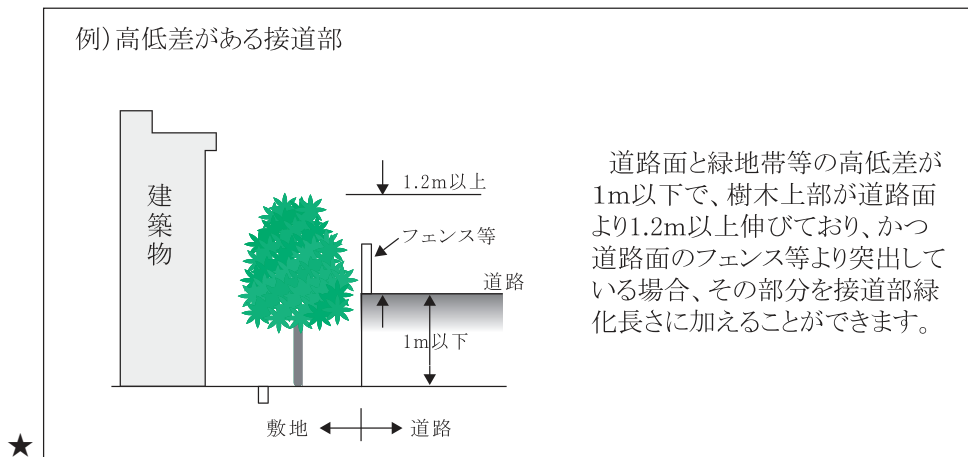
接道部の緑は、建物の外部空間の美しさとともに周囲との緑の連続性と調和を生みだし、まちなみの景観を高めてくれます。そのため、計画をたてるときは、接道部に緑を配置する計画を立ててください。

接道部の緑化は中高木や生垣に低木を組み合わせて景観に配慮して植栽することを基本とし、防災上道路沿いにはできるだけ塀や工作物を設置しないでください。防犯上の理由などからフェンスや柵を設置する場合もその外側へ意匠性の高い緑化や登はん性植物による立面緑化などを行ないましょう。また道路交通への安全性に注意してください。

(2) 接道部緑化のポイント

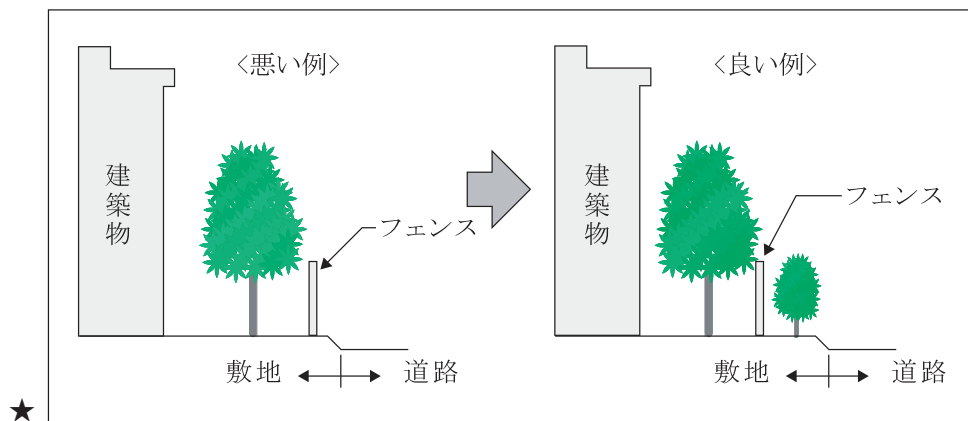
道路と接道部緑地との間に段差があったり、特殊な土地利用区分に接道部緑地が接している場合には以下のように植栽してください。

ア 敷地と道路の高低差がある場合



イ フェンス等を設ける場合

塀やフェンスを接道部に設ける必要がある場合は、設置位置を道路から後退させ、その前面（道路側）を緑化する形を基本とします。



※ フェンスや柵の色は黒やこげ茶など景観的にも落ち着いたものをおすすめします。

※ 接道部の緑地帯の縁石等の高さは、できるだけ低くし、50cm以下になるようにしてください。

10-2. 技術的な配慮事項

(1) 植栽基盤の確保

植物のよりよい生長を促すため、有効土層厚及び優良土壌の確保に努めてください。

(2) 日光、降水の確保

樹木等が生育するために必要な太陽光、雨などが十分あたる場所に緑化を行ってください。

(3) 環境にあった樹木種類の選定

別表（28、29ページ）などを参考に、植栽地の光環境や土壌の乾湿などの土壌条件に適した樹木等を選定してください。

※臨海部地域では、潮風に強い樹木を植えるようにお勧めします。

※季節により、サザンカやツバキには茶ドクガが発生しやすくなりますので、管理に注意が必要です。

※トンボや蝶、小鳥の好む樹木を植えるなど、生物多様性を考慮に入れて植栽計画をたてましょう。

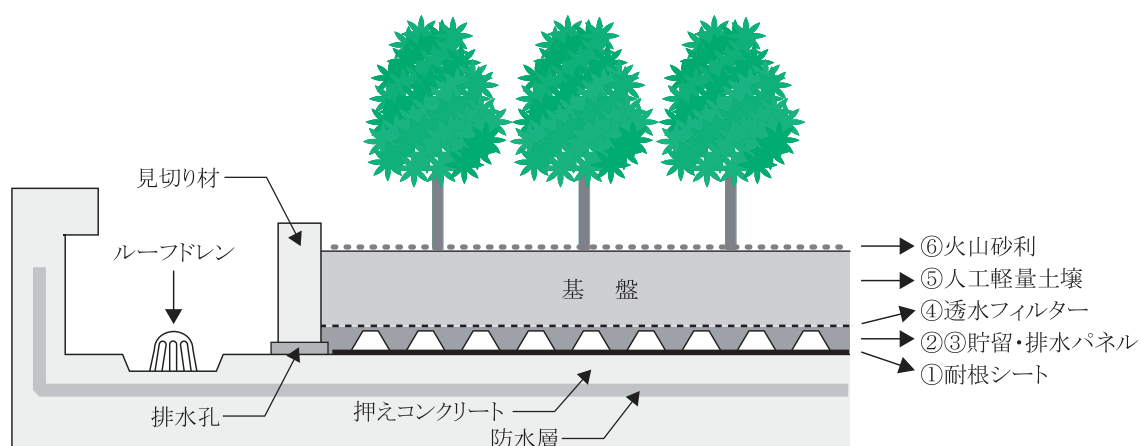
未来の生態系を守るために

現在、世界の各所で外来種による生態系の変化が起きています。皆さんの身近なところでも在来の近縁種や外来種と同じ環境を好む種が絶滅の危機に瀕しているかもしれません。現在の生態系を守るためには、外国や他の地域からきた植物に適切に接していく必要があります。「こんな植物を植えたいな」と思ったときに、その植物がどんな植物で周りへの影響としてどんなことが考えられるかを調べてみてください。そういったみなさんの1つ1つの積み重ねが未来への生態系の保護につながっていきます。

(4) 屋上・ベランダ緑化のポイント

屋上、ベランダ等においては、荷重条件に注意し、十分な植栽基盤の確保、建物防水層の保護対策、落下・転落防止の安全対策、排水対策、灌水方法、避難路の確保などに配慮してください。

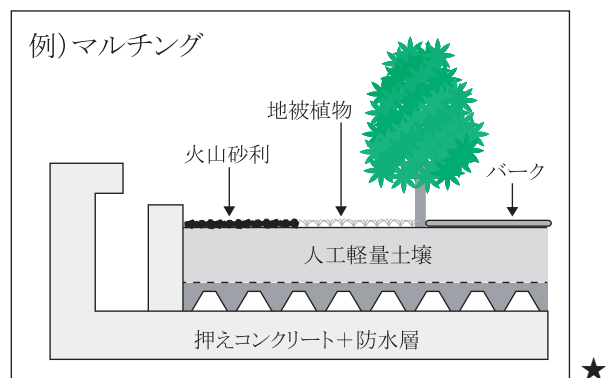
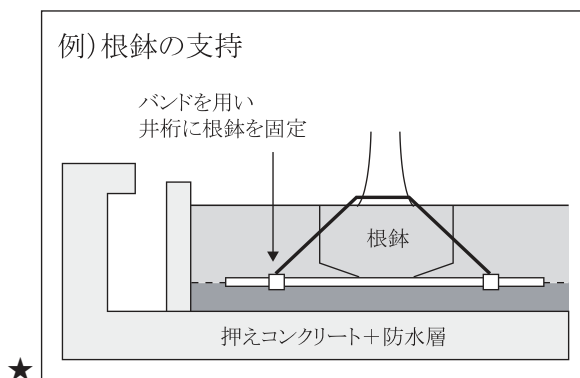
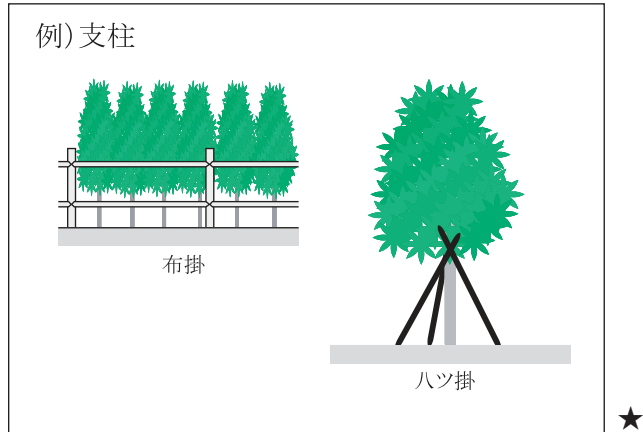
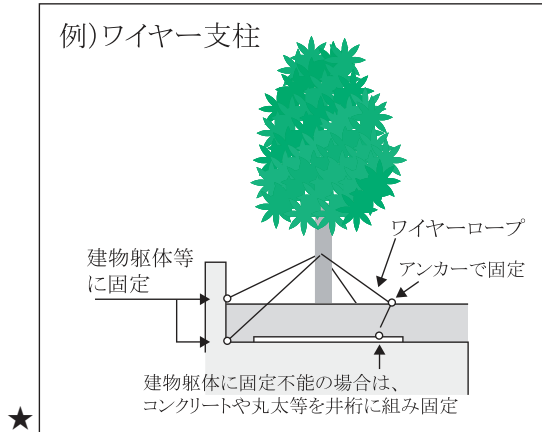
屋上緑化の植栽基盤例



★

《風、乾燥対策の手法例》

- ア ワイヤー支柱、布掛け支柱、地下式支柱などを設置
- イ 植栽基盤が薄い場合は、根鉢の薄い樹木を導入し、支持材で固定
- ウ 地表面に、マルチング材（地被植物、バーク、不織布、砂利など）を設置



(5) 壁面緑化のポイント

屋上、ベランダ等の留意点と同様、十分な植栽基盤の確保、水遣り方法や美観の形成に配慮し、ネットやメッシュフェンス等の補助資材を利用目的により適切に設けるようにしてください。

